

平成二十六年七月投句

【金毘羅池周辺】

芭蕉の句揺れる風鈴南部鉄

母好む水引草の咲き初めし

夏料理しぶしぶと取る男振

勝利

占ひの灯の薄暗き夜店かな

真理子

書き終えし形代を風通り抜け

大波止へ夜店提灯つらなりて

炎天に下りし雀が痩せてをり

水底におたまじゃくしのゐて動く

工場の空き地ニガウリ畑となり

節子

藁しべを銜え青鷺又一羽

由紀子

亀の石軽鴨の石ほぼ決まり

うふといふ夢にまだ笑み昼寝の児

翡翠の戻りをしばし待つことに

草に置き道にも忘れ日傘かな

光子

【お休み】

佳与子

一万歩コースの標山青葉